

## 配信資料に関する技術情報第 511 号

～ひまわりによる海面水温格子点資料の改良について～  
(配信資料に関する技術情報第 443 号関連)

### 概要

「ひまわりによる海面水温格子点資料」は、ひまわりの観測データから算出した海面水温を半日ごとに合成した水平解像度 0.02 度の資料です。これまで、毎正時の観測データを利用していましたが、今回、計算機能力の向上により新たに 10 分毎の観測データを利用する環境が整ったことから、10 分毎の観測データを利用したプロダクトの提供を開始します。これにより従来よりも雲域による欠測域が減少します。

### 1 提供開始日

平成 31 年 4 月 23 日配信の資料から

### 2 本資料の変更内容

本資料は、ひまわりの観測データから算出した海面水温を半日ごとに合成して作成しています。これまで、毎正時の観測データから算出した海面水温を利用していましたが、今回、新たに 10 分毎の観測データから算出した海面水温を利用するように変更し、「前日 9 時 00 分～20 時 50 分」と「前日 21 時 00 分～当日 8 時 50 分」の期間で合成します。これにより、より多くの観測データを利用できるようになり、合成時の雲による欠測域が減少します（下図）。

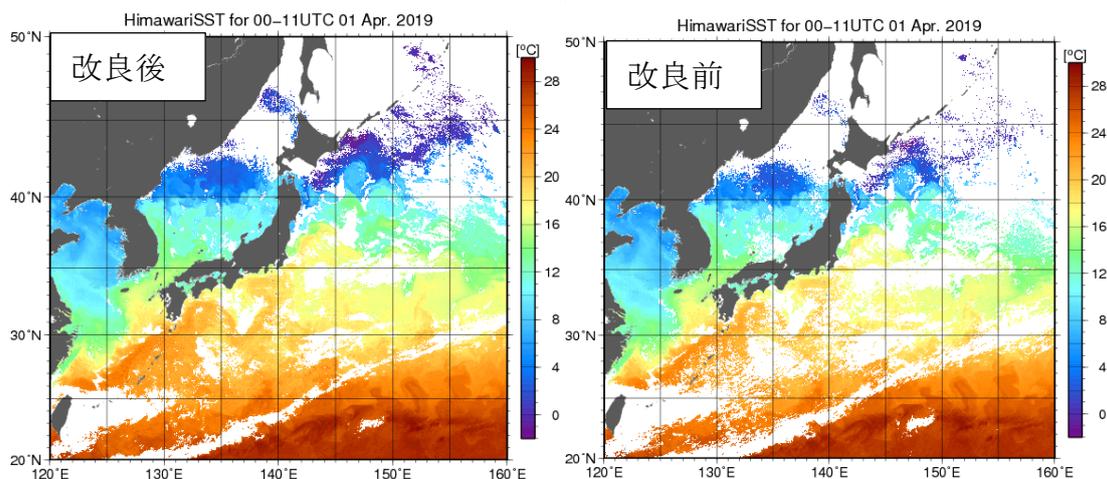


図 ひまわりによる海面水温格子点資料から作成した分布図の比較  
左は 10 分毎の観測データから作成した図、右は毎正時の観測データから作成した図。いずれも 2019 年 4 月 1 日 9 時～20 時の期間で合成したもの。

### 3 本資料の仕様

本資料の概要の記載内容の一部を下記のとおり変更します。  
なお、配信するプロダクトのフォーマットに変更はありません。

変更対象：

ひまわりによる海面水温格子点資料（別紙1）

変更内容：

- ・ 半日ごとに合成したデータ元になるひまわり海面水温データについて、「毎正時」から「10分毎」に記載内容を変更
- ・ 参考図について、10分毎の観測データを合成して作成した図に変更

### 4 障害時やメンテナンス時の対応

本資料の変更後も障害時やメンテナンス時の対応に変更はありません。

## ひまわりによる海面水温格子点資料

## 1. 概要

ひまわりによる 10 分毎の海面水温を「前日 9 時 00 分～20 時 50 分」と「前日 21 時 00 分～当日 8 時 50 分」の期間の最高値で合成した水平解像度 0.02 度の資料です。期間をとおして雲域などにより値が無い格子では欠測となりますが、詳細な海面水温や海流の分布が把握できる資料です。

## 2. 配信内容

- 領域：日本近海（20N-50N、120E-160E）
- 格子系：等緯度経度 0.02 度間隔
- レベル：海面
- 要素：海面水温（単位はケルビン(K)）
- 時間・種別：実況・観測
- 通報形式：GRIB2
- ファイルサイズ：2 ファイルで約 7MB/1 回
- 配信時刻、回数：10 時 40 分頃、1 日 1 回 2 ファイルまとめて配信

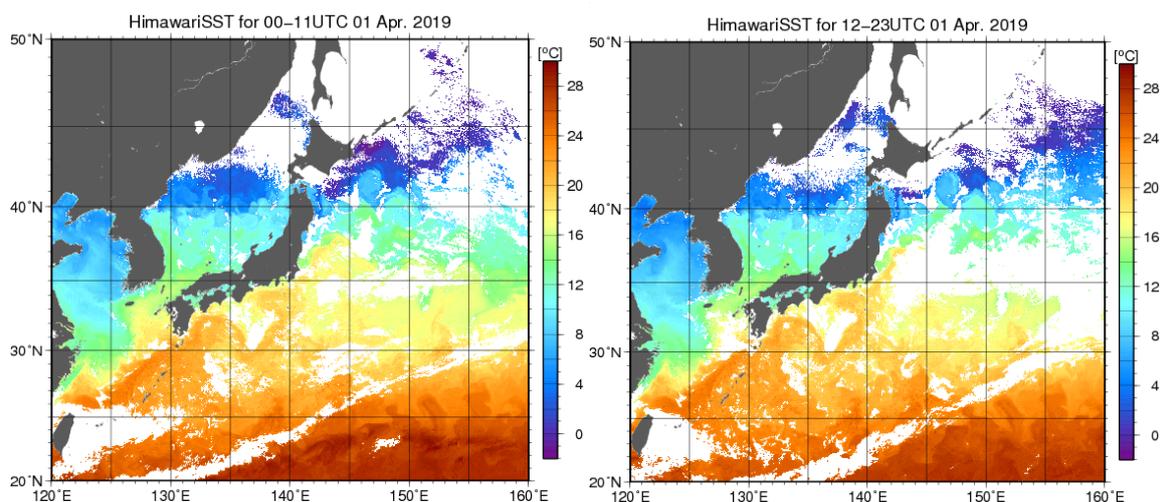


図 ひまわりによる海面水温格子点資料から作成した分布図の例  
(左は 2019 年 4 月 1 日 9 時～20 時、右は同日 21 時～翌日 8 時の期間で合成)

## 3. ファイル名

Z\_C\_RJTD\_yyyyMMddhhmmss\_OCN\_GPV\_Rjp\_Gll0p02deg\_Pss\_OyyyyMMddhh\_grib2.bin (ファイル圧縮なし)

※Z と C の間にはアンダースコアが 2 個、その他のアンダースコアは 1 個。

yyyyMMddhhmmss は配信年月日時分秒 (UTC : 協定世界時)、

yyyyMMddhh は観測年月日時 (UTC : 協定世界時)、hh は 00 又は 12。